

# 産科婦人科

## 産科婦人科後期研修プログラム

### 1. 研修目標

3年間の研修期間を通して日本産科婦人科学会専門医資格の獲得を目標とする。日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修目標 ([http://www.jsog.or.jp/kaiin/html/senmoni/sotugo\\_mokuhyo2004/sen\\_mokuhyo2004.html](http://www.jsog.or.jp/kaiin/html/senmoni/sotugo_mokuhyo2004/sen_mokuhyo2004.html)) に従い、周産期グループ、婦人科グループ、不妊症グループでの研修を行う。

### 2. 研修計画

各グループを前期、後期に分けて3年間のローテーションを行う。

#### a) 周産期

周産期グループでの研修は、妊娠・分娩・児の胎児期から新生児期への適応を、母体側からみた生理現象の一つとして理解し、随伴して発生してくる様々な病態に対して適切な判断が下せることを目標とする。胎児超音波診断による胎児心奇形などの症例で出生前診断の習得、超音波パルスドップラー法によるIUGRの診断、管理も研修の中で習得する。

前期：正常分娩の管理、異常妊娠の管理（主に病棟業務）

後期：正常分娩の管理（外来）、異常分娩の管理、帝王切開術 子宮頸管縫縮術の習得

#### b) 婦人科

婦人科グループでの研修は1990年より開始し年間症例件数50-100例の割合で行われている腹腔鏡手術の習得を目標とすると共に、婦人科癌で治療戦略として重要な位置づけにある化学療法（抗ガン剤治療）の基本的知識、管理の習得を十分な症例数をもとに研修を行う。

前期：術前、術後管理、基本的手術操作、腹腔鏡の基本的操作

後期：腹式、腔式子宮全摘術（良性→悪性）、腹腔鏡手術（良性→悪性）、婦人科診断技術の取得

#### c) 生殖内分泌

生殖内分泌グループでの研修は各種ホルモンについての一般的概念を把握するとともに、加齢に伴う性機能の変化とその特質を理解し、内分泌疾患を鑑別できる能力を身につける。また不妊症一般についての概念を把握したうえで、不妊症についての検査、治療を系統的に実施し、かつ腹腔鏡を用いた診断・治療、体外受精・胚移植法等の先端医療の原理についても理解し、実施するのに必要な知識・技能・態度を身につける。

前期：基本的知識、技術の習得

後期：不妊外来、体外受精における採卵、媒精技術の習得、胚（卵、精子含む）凍結技術の習得、顕微授精技術の習得

不妊症関連手術（子宮内膜症手術、腹式、腹腔鏡下子宮筋腫核出術、子宮鏡手術等）の習得

### 3. 大学院コース

大学院に入学し、関連領域の研究に従事する。

● 1年目：大学病院でローテーション

● 2年～5年目：大学、関連留学先（大阪大学生化学教室、長崎大学原爆研、NIH）において研究、学位の取得ができる。

